

日本交通学会  
第79回研究報告会・会員総会  
プログラム

統一論題

「都市地域交通の社会的便益再考」

会 期：2020年10月10日（土）～11日（日）

開催校：関西大学

会 場：オンライン開催

第1日：10月10日（土）

- ・統一論題（基調講演・シンポジウム）
- ・日本交通学会総会

第2日：10月11日（日）

- ・自由論題（午前：セッションA・B・C／午後：セッションD・E・F）

日本交通学会第79回大会実行委員会  
関西大学

[お問い合わせ先] 日本交通学会事務局

E-mail: [info@koutsu-gakkai.jp](mailto:info@koutsu-gakkai.jp)

TEL：03-5363-3102

FAX：03-5363-3115

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、10月10日（土）・11日（日）に開催を予定しております  
第79回研究報告会（関西大学）は開催方法を、「オンライン（Zoom）開催」に変更させていただくことと  
いたしました。詳細はホームページ、会員向 ML 配信等にてお知らせ致します。

## 【統一論題テーマ】

### 「都市地域交通の社会的便益再考」

#### 【趣旨】

人口減少・超高齢社会への対応あるいは低炭素社会の実現を目指した都市地域の交通政策が課題となっている。従来からの交通需要対応型の交通投資とは異なり、このような交通政策では、多面的で幅広い社会的便益が期待されている。すなわち、空間的な移動による時間・費用に関する便益に加えて、環境・健康などの多面的な社会的便益を考える必要がある。また都市地域交通には、いわゆる公共交通機関に加えて、自転車・小型車両・シニアカーなど私的交通機関が含まれる。

このようなことから、本年の統一論題では、伝統的な公共投資に対する費用便益分析における社会的便益の評価範囲・方法を再考する。たとえば、公共交通機関の多様化に加えて、新型交通手段の導入、各種シェアシステムの導入などアクセス・イグレスを含めた都市地域交通を再構築しようとする近年の動向に合わせて、社会的便益の計測範囲を拡大する必要がある。また都市地域交通において、特定部門の交通政策が、他部門に利益をもたらす、いわゆるクロスセクターベネフィットを考えた社会的便益の分析方法を考える必要がある。さらに、ICT・AI を活用した先端的な運輸交通技術のもたらす社会的便益も検討すべき課題となっている。

これらの討議を踏まえて、都市地域交通の現代的な役割を再検討するとともに、広範な社会経済的な効果の規定と交通政策への活用に向けた提起を試みたい。

【第1日】10月10日（土）

➤ シンポジウム（統一論題）「都市地域交通の社会的便益再考」（オンライン開催）

13：00～入室開始（予定）

13：30～13：40 趣旨説明

13：40～14：30 基調講演

武市 信彦 氏 （西日本旅客鉄道）

14：40～15：40 パネル報告（4名）

15：45～16：45 パネルディスカッション（5名）

武市 信彦 氏 （西日本旅客鉄道）

竹内 健蔵 氏 （東京女子大学）

土井 勉 氏 （グローバル交流推進機構）

武藤 慎一 氏 （山梨大学）

土方まりこ 氏 （交通経済研究所）

コーディネーター

宇都宮浄人 氏 （関西大学）

➤ 日本交通学会総会（オンライン開催）

16：30～入室開始（予定）

16：50～17：35

【第2日】10月11日（日）

➤ 自由論題 研究報告（オンライン開催）

9：40～入室開始（予定）

10：00～12：00 セッションA（鉄 道）

10：00～11：30 セッションB（航 空）

10：00～12：00 セッションC（道 路）

13：10～入室開始（予定）

13：30～15：00 セッションD（公共交通）

13：30～15：30 セッションE（観 光）

13：30～15：00 セッションF（経営マーケット）

（※詳細は自由論題プログラムをご覧ください）